経営者は想いを語る

ニッポン・ジーン

住所：〒930-0834
富山県富山市問屋町1丁目29番地
HPアドレス：http://www.nippongene.jp

代表取締役社長　**米田　祐康氏**

■株式会社ニッポン・ジーンの起り■

私はアメリカの大学で6年間バイオテクノロジーの研究を行ってきました。その経験を生かしたビジネスが出来ないかと思い、昭和57年1月に金剛グループの子会社として、「株式会社ニッポン・ジーン」を設立いたしました。

設立当初は、遺伝子組み替え用試薬の開発製造から始まりました。新薬を作るのではなく、新薬を作る研究者の方々が使用する研究用試薬の開発製造です。研究を支える縁の下の力持ちという支援産業からスタートしたのです。

現在では、細胞融合技術も取り入れ、診断、検査試薬の開発製造も行っています。また、元々「株式会社ニッポン・ジーン」の「ジーン」は、"遺伝子"という意味合いを持っています。診断、検査試薬に遺伝子の要素も組み入れ、遺伝子診断、検査試薬を開発製造中です。現在は診断、検査薬を主流商品とすべくシフトしつつあります。

食品の安全性や病気など、診断、検査試薬の種類は様々です。その中で私達は、特許に固執するのではなく、バイオテクノロジーを駆使し、試薬開発、製造に取り組むモノづくり企業でありたいと考えています。

■健康産業金剛グループと
その一翼を担うニッポン・ジーン■

金剛グループのコンセプトは「健康産業」です。一言で「健康」と言いましても、人、動物、植物、地球とあらゆる生態に「健康」があり、人の健康的な生活には、他の生態の健康状態が密接に関係します。そのため、当社では人に限らず、動物、植物、環境に関するものも開発製造しています。

当グループは、ニッポン・ジーン以外に７社の企業で成り立っています。全ての会社は、人が幸せな生活を送るために必要不可欠である健康つまり病気にならない生活の提供を目指しています。

その中で健康へのキーワードとして、「予知」「予防」「診断」「治療」があります。グループ内の会社は、それぞれ各機能を担って設立されています。

まず、「予知」です。これは遺伝子的にどのような病気になりやすい体質かを調べます。次に「予防」。体質が分かれば、その病気を避けるために何をすべきか、どのような栄養を取る必要があるか考えることが出来ます。しかし、そのように健康に気をつけた生活をしていても、年に数回検査をしなければなりません。これが「診断」です。そして、注意をはらっていても、不幸にして病気になった場合、最後に「治療」となります。とかく、健康産業となるとすぐに「薬」と短絡的に考えがちですが、それは最後の手段です。

その中でニッポン・ジーンは、遺伝子技術を活用して体質を調べる「予知」、病気の有無や病名、病気の状態を確認する「診断」のステップで関与しています。冒頭に述べた遺伝子診断、検査試薬が活用されます。

■これからの薬品業界■

今後、製薬業界では自社で製造する薬に対して、効果や副作用などに関し、遺伝子との相関データを添付しなければならなくなります。益々診断薬の需要が高まると考えられます。

また、例えば、癌などの手術を要する際でも、遺伝子診断、検査を行うことで、最良の手術が出来るようになります。

■夢の実現へ■

富山県は、配置薬で全国に知られています。「予知、予防、診断、治療」という認知を高め「健康富山」をテーマに、日本の健康キャピタルとして、いずれ富山県の活性化に繋げていける取り組みではないかと考えています。健康キーワードのうち「予知」＝調べる、「予防」＝アドバイス、「診断」は地方でも最高レベルのシステムを作ることは十分可能と考えられます。生活しやすい土地柄も合わせて、富山県は適した土地だと思います。今後、構想として考えていきたいと思います。

北電情報システムサービス株式会社

北陸電力グループ
HISS
The Hokuden Information System Service Company,Inc.

住所：〒930-0004
富山県富山市桜橋通り3番1号
HPアドレス：http://www.hiss.co.jp/

代表取締役社長　**並木　誠氏**

■品質重視の中で追いかける
IT社会における夢の実現■

当社は、お客様企業の業務システムの開発、保守・運用を主に行っています。今日の会社業務の多くにはコンピュータ・システムが組み込まれており、その業務遂行はシステムの適確な稼動が前提となっています。そのため、当社の受託業務においてミスがありますと、システムを利用されているお客様にご迷惑をおかけすることになり、場合によっては経営が滞るということにもなりかねません。従いまして、当社では「品質」を最も重視しており、従業員には常に緊張感を持って業務に取り組んでもらっています。ミスが許されない厳しい業務ではありますが、一方で、夢を持ち、やりがいを見出していける仕事でもあります。

情報技術（IT）の進展には目を見張るものがあります。その利用・活用は、業務処理や生産といった企業活動から生活・社会システムまでの広範囲で行われています。そして、それは単に「効率化が図られた」、「便利になった」というところから「これまで出来なかったことが出来るようになった」という段階へと進んでいます。ITの進展とその利活用により、出来なかったことが可能になり、また新たな価値が生み出されてまいります。当社が携わる情報産業は、こうした社会変革を推進するとてもやりがいのある、夢のある産業であると考えます。

従業員にはこのような気持ちを持って業務にあたってもらっています。そして、現状で不足しているITに関する知識と技能のさらなる向上を図り、品質重視という基本をしっかりと踏まえながら、新しいことにも挑戦していきたいと思っています。

富山には、製造業を中心にすばらしい企業がたくさんあります。各社さんは、それぞれの事業分野において自社のさらなる発展を目指しつつ地域の活性化、「元気とやま」の創造に大いに貢献されています。当社としましても、「ITの利活用」という切り口で、地域の発展にいささかなりとも貢献してまいりたいと考えています。

■IT産業の地域イノベーション■

「地域ICT利活用モデル構築事業」として、富山県と南砺市が主体となり進められている「対面型オフィス間連携システム」の開発に、当社は今携わっています。これは、テレビ会議システムをベースとし、その操作性を改善すると共に「スケジュール」や「メッセージ」、「文書管理」などの、いわゆるグループウェア機能を合わせて提供するものであります。従来の「会議・打ち合わせ」から一歩踏み出し、企業内／企業間を問わず離れた拠点間での「協同作業」を念頭においたもので、そこで必要な簡易のデータベースも付加していく計画であります。

ビジネスが首都圏に集中し、それに伴い人口も首都圏に集中する傾向が続いています。「対面型オフィス間連携システム」を利用しますと、自然環境に恵まれた住みよい富山に居ながら、首都圏に居るのと遜色ない形で仕事を進めることが出来るようになります。これにより若い人達の流出が減少し、さらには首都圏などからの企業や労働者の転入も期待出来るのではないか、そして地域の活性化に繋がるのではないかと考えます。

また、少子高齢化の進展に伴い導入が見込まれる、在宅勤務においても簡単に、便利に利用して頂けるシステムであります。

商品の開発にはユーザーの視点が何より重要であります。開発者の思い考えには限界がありますので、出来るだけ多くの方にご試用頂き、ご意見を伺い、より良いものに仕上げていきたいと思っております。是非とも成功させたい取り組みであります。

■産学連携■

富山県立大学の研究協力会は、学の「知」と産の「技」をマッチングさせることにより、新たな価値を生み出す貴重な場であると考えます。産業界は、世の中の顕在的・潜在的ニーズを捉え、保有する技術を駆使して商品を開発しますが、そこに学界の知恵・知識を加えることによりより高い価値のものを社会に提供することになります。当社としましては、これまでのところ、共同研究に与った案件はありませんが、今後新しい分野に挑戦していく中で、アドバイスを頂きたいと思います。

また、研究協力会は、次代を担う学生さんが実業の世界に直接触れることが出来る機会でもあり、学生さんにとって将来への大きな糧となるものであります。このような観点からも、研究協力会に対しては引き続き協力をしてまいる所存であります。すべては地域の発展に繋がるものと考えます。